

日本神経化学会

2021年度第1回理事会議事録(案)

日時：2021年3月26日(月) 13:00-17:00

会場：Zoom会議

出席 (Zoom)	執行部) 小泉修一(理事長), 尾藤晴彦(副理事長), 竹居光太郎(庶務担当), 村松里衣子(会計担当), 竹林浩秀(出版・広報担当) 理事) 岡野栄之(脳研究推進委員会委員長), 木山博資(連合大会・多分野交流委員会委員長), 工藤喬(利益相反委員会委員長), 佐藤真(研究助成金等候補者選考委員会委員長), 東田千尋(ダイバーシティ推進委員会委員長), 仲嶋一範(シンポジウム企画委員会委員長), 永田浩一, 板東良雄, 堀修, 望月秀樹(理事, 臨床連携委員会委員長), 以上50音順 新理事) 荒木敏之, 今泉和則, 田中謙二(将来計画委員会委員長), 照沼美穂(若手育成委員会委員長), 等誠司(優秀賞・奨励賞選考委員会委員長), 和中明生(第64回大会長) 以上50音順 監事) 遠山正彌, 田代朋子 委員長等) 馬場広子(第63回大会長)
委任状	なし
欠席	味岡逸樹(国際対応委員会委員長)

議 題

【報告事項】

1. 2020年度第2回理事会議事録承認について

小泉修一理事長より, 先般持ち回り審査を行い, 承認が得られている旨報告があった。

2. 理事長報告

小泉修一理事長より, 理事長就任中の謝辞が述べられた。続けて, 当会運営について, 以下の通り報告があった。

- ・2019年の3月に就任し, 平成から令和へ変わるタイミングで新しい活動を目指したが, 後半, 新型コロナウイルスにより, 会議のweb化など急速に進んだが, それらは変わらざるを得なくて変わった部分であり, 目指していた改革や活動は制限される部分も多かった。
- ・これまで同様「伝統の継承と改革」を進めてきたが, 物質分子, 疾患を明らかにするという目的の実践のために, 臨床系との強固な連携や若手人材育成に力を入れて活動してきた。
- ・外へのアピールも大事であるが, 中の会員への情報発信の強化のため, 理事長だよりの継承と, 委員長だよりの新設, 若手へのメッセージとして, OBの先生方に寄稿いただく「私と神経化学」も開始した。これらの情報発信にあたっては広報担当先生方に非常に負担をかけた。
- ・「目安箱」も新設した。活用はまだ少ないが, 情報収集および組織の透明化の推進として今後も続けていきたい。
- ・改革については, 法人格を取得した。現行組織からの移行がこれからであるが, 今後, 一般社団法人化により, 社会的地位の向上, 活動が活発化することを目指す。
- ・執行部, 理事, 監事, 委員会の皆様には大変感謝申し上げたい。

3. 理事改選結果報告

2021年2月4日に開票された理事選挙結果について, 竹居光太郎選挙管理委員会委員長より報告があった。

白票（3票投票可であるが3票未満）の数について、今回特に多いということにはなかった。投票者の年齢層などの内訳についてはシステムDBから事務局で抽出し、後日報告する。

4. 庶務報告

竹居光太郎庶務担当理事より、以下の通り報告があった。

◆会員状況について

会員数動向としては、入会者数より退会者数の方が増加した。引き続き慰留に努めている。

◆除名について

年会費長期未納者（未納期間：2017年度～）が報告され、2020年12月31日付で31名に対し除名処理を行った。

◆評議員・団体会員の退会について

退会希望評議員へは慰留をし、1人が功労として継続、2人は退会の意思が固く退会となった。団体会員の広島大学図書館、昭和大学図書館、日本大学医学部図書館より退会希望があり、退会処理を行った。機関誌をオープンアクセスジャーナルとしたことにより冊子不要とのことで、昨年度より退会希望が増加しているがやむなしとして承認された。

会員数の減少傾向について意見交換、コメントがあった。

会員の年齢分布の推移、所属先（臨床）については、システムDBから事務局で抽出し、竹居理事と分析後、後日報告する。

若手セミナーに出席した会員は止めにくい傾向にあるので、一層、活動を強化していきたい。

最近の学生には、発表が終わると学会を退会し継続参加しない傾向がみられるが、継続参加することによる研究活動の意義について指導者が学生にエンカレッジしていく必要がある。

新しく赴任した教授に学会に入会いただき、研究室ごと入会いただくという方法も検討したい。

5. 会計報告

村松里衣子会計担当理事より、以下の通り報告があった。

◆年会費未納者数について

年会費未納者数については資料より心当たりの年会費未納者がいた場合は連絡をお願いしたい。特に、本年度中に未納が解消されない2018年からの長期未納者については、本年度末付で除名処理となる為、当該者へ連絡可能な理事会メンバーは本人へ納入喚起を行うこととした。特に評議員については、事務局からの再度督促を行うこととした。

◆2020年度税務申告について

税務申告について法人税70,000円のみ納めた。なお、消費税は、2018年度収益が1千万円以上であったため、その2年後である2020年度は納税義務が発生し、消費税95,900円を納めた。なお、2019年度も、収益が1千万円以上であったため、2年後の2021年度にも納税義務が発生し、金額はその年の課税売上により変動する。2020年度は、収益が1千万円以下であったため、2年後の2022年度には納税義務が発生しない。

◆2020年度監査について

2021年2月24日に事務局内にて、2020年度決算について田代朋子監事によって会計監査が行われた。その結果、収支内容及び財政状況について正しく示されている旨認められた。

理事長から、遠山正彌監事、田代朋子監事への謝辞があった。

6. 出版・広報報告

竹林浩秀出版・広報担当理事より、以下の通り報告があった。

◆機関誌「神経化学」について

Vol. 59 No. 2 が2020年12月末に発行された。通常記事の他、私と神経化学、追悼を掲載。

Vol. 60 No. 1 は2021年6月末発行予定で、2021年4月20日を入稿締切りとしている。

◆大会抄録HP掲載について

第63回日本神経化学学会大会抄録集は、当会ホームページへ既に掲載済である。

理事長および第64回大会長から、出版・広報委員会への謝辞があった。

7. 委員会報告

(1) 将来計画委員会

田中謙二委員長より、以下の通り報告があった。

- ・第3の矢、すなわち、若手育成セミナー、若手道場、それにかわるものを模索してきた。セミナーや道場で学会へ入ってきた若手をどう定着させるかについて活動してきた。委員会メンバーにPIレベル、準PIに参加してもらい若手を元気づける仕組みにしていきたい。
- ・臨床連携委員会との連携を、深めていきたい。

理事長より、コロナで思った活動が難しかった中での尽力について謝辞があった。

仲嶋理事より、若手道場は座長をする先生方が、それをきっかけに、新しい共同研究を仕掛けていくようなことに発展させてほしいとのコメントがあった。

(2) 出版・広報委員会

竹林浩秀委員長より、以下の通り報告があった。

- ・バナー広告：エダンスグループ継続。当学会の特別割引があるのでご利用いただきたい。
- ・神経化学トピックス：3件掲載。
- ・特別寄稿について：継続して5件掲載。続けて、執筆者に依頼をしている。
- ・委員長だより：5件掲載。
- ・Facebook, Twitter, Instagramも継続実施している。

理事長より、色々は発信方法があるので、今後も活用していきたいとコメントがあった。

(3) シンポジウム企画委員会

仲嶋一範委員長より、以下の通り報告があった。

和中大会長とも相談した結果、感染の状況を考慮して一般公開とはせず、基本的に会員向けに企画を行い、そこに地元の高校生を招待するという形を取るようになった。

< 2021 年度日本神経化学会 理事会企画シンポジウム >

- ・オーガナイザー：竹居光太郎（横浜市大），村松里衣子（NCNP）
- ・テーマ：神経発生から神経再生・修復へ
- ・概要：胎生期における神経細胞への分化，神経細胞の移動，神経回路の形成（軸索伸長・軸索ガイダンス・シナプス形成）といった神経発生の素過程の事象やその分子機構の理解を，神経系の再生・修復の方策に如何に結びつけるかについて包括的に考えることができるようなシンポジウムとして企画する。
- ・構成：高校生を含めた聴衆に対しても分かりやすい内容で構成する。冒頭に高校生に向けて「神経ネットワークのでき方・治し方」といった話題で横浜市大の竹居が平易に一般向けに神経発生の概略の説明を行い，その後神経発生と神経再生の各専門家が高校生にも理解できることを意識して最新の研究を紹介する。神経発生と神経再生の各分野から2名づつの演者で構成する。言語は日本語で，一人の持ち時間は約20-30分を予定。

(4) 国際対応委員会

味岡逸樹委員長に代わり，和中明生委員より，以下の通り報告があった。

- ・ISN/APSIN 2022 京都大会（2022年8月28日-9月1日）
ISN/APSIN 京都大会が延期。詳細については未定。
- ・APSIN 2021 大会（シンガポール）について
2020年12月にマリーナベイサンズホテル併設の会議場で開催される予定だったAPSIN2020大会が延期となり，2021年中の開催で検討中。
- ・APSIN理事選について
和中先生が理事に当選。

(5) 研究助成金等候補者選考委員会

佐藤真委員長より，以下の通り報告があった。

- ・2020年9月から2021年3月における学会推薦公募案件について
公募案件は13件あった。そのうち，公益財団法人東レ振興会第61回東レ科学技術賞について，1件の応募があり審議の上，1件推薦，第60回東レ科学技術研究助成について，2件の応募があり審議の上，2件推薦した。公益財団法人山田科学振興財団2021年度研究助成について，3件の応募があり審議の上，2件推薦することとなった。公益財団法人木原記念横浜生命科学振興財団第29回木原記念財団学術賞について，1件の応募があり審議の上，1件推薦した。なお，学会より推薦した候補者については，事前に理事へメールにて報告している。
- ・2020年9月から2021年3月までの推薦後の選考結果について
財団法人井上科学振興財団第37回井上学術賞 2件推薦した結果，1件採択となった。

(6) 脳研究推進委員会

岡野栄之委員長より，以下の通り報告があった。

- ・委員長だよりでも活動報告を紹介しているのでお目通しいただきたい。
- ・AMEDでは新体制でスタート。
第二期健康・医療戦略，中長期計画に定められた6つの統合プロジェクトでの研究開発を推進。そのうち，疾患基礎研究プロジェクトでは，新規「脳とこころの研究推進プログラム」

が令和3年～令和11年度事業として実施される。

採択にあたっては、チームを組む必要があり、有機的なコラボレーション、データサイエンス、臨床と基礎の双方向性、萌芽の研究が重要視される。

今後も政府への提言などで研究費取得のイニシアティブを取り、地位向上をしていくことが必要。

(7) 優秀賞・奨励賞選考委員会

等誠司委員長より、以下の通り報告があった。

- ・2021年度優秀賞・奨励賞募集について
5月末〆切で募集中であるが現在まで応募なし。先生方からもぜひ推薦いただきたい。
- ・受賞者に何か執筆いただくことも新しい取り組みとして開始したい。

(8) 連合大会・多分野交流委員会

木山博資委員長より、以下の通り報告があった。

- ・2021年度大会（奈良大会）での本委員会企画セッションでは、東京医科歯科大学 特別栄誉教授の藤吉好則先生にお願いしご快諾いただいた。若手へのアンケートから、周知不足が課題と考えられるため、今後積極的な広報活動を行っていきたい。
- ・2024年CINP（国際精神神経薬理学会）東京大会との同時開催については、国際学会と併催されるNP, CNP, JSN 3 学会合同大会に参加は見送ることを答申する。

(9) 利益相反委員会

工藤喬委員長より、以下の通り報告があった。

- ・今期は指針の改定を行ったが特に問題はなかった。次期委員長へ引き継ぎたい。

(10) ダイバーシティ推進委員会

東田千尋委員長より、以下の通り報告があった。

- ・第63回大会では、演者・座長の女性比率が、昨年大会と比べて高い結果でよい傾向であった。
- ・若手道場では、女性比率が53.3%となった。

第64回大会長より、引き続き第64回大会でも属性調査は継続していくとのコメントがあった。望月理事より、今後、当会の役員の女性比率について言及があり、小泉理事長より、今後、様々な属性分野から役員にご参加いただけるよう進めていきたいとのコメントがあった。

尾藤副理事長より、若手道場については、オンライン実施したことにより、参加が増えたことも功を奏したとのコメントがあった。

(11) 臨床連携委員会

望月秀樹委員長より、以下の通り報告があった。

- ・基礎と臨床の連携強化をすすめてきた。

- ・2023年は連合大会として進めていく
- ・若手の学会参加が減ってきているため、若い先生に理事や委員会へ参加いただき活性化していきたい。

岡野理事より、他学会ではU40、U45という組織活動もある、それらも参考にしていくのはどうかというコメントがあった。

(12) 倫理委員会

竹居光太郎委員長より特段の報告事項は無いとした。

(13) 若手育成委員会

照沼美穂委員長より、以下の通り報告があった。

- ・第63回若手道場は、Web開催。6名に優秀発表賞を授与、受賞者コメントをHPに掲載した。
- ・第13回若手研究者育成セミナーは、Web開催。事後アンケートではたいへん好評であった。
- ・第64回若手道場は、道場終了後にフィードバックを実施する。審査員の一般公募も行う。
- ・第14回若手育成セミナーは、学会初日9月30日夜に開催予定。
- ・若手育成セミナーの世話人代表と副代表は拡大委員と期間限定で委員会に参加いただく。

8. 評議員報告

尾藤晴彦副理事長より、以下の通り報告があった。

「Post Coronaの日本の神経化学」としてweb開催。

- ・コロナ禍でも思考停止とならないよう、多様なイベント開催や企画推進が望まれる。
- ・オンラインによりむしろ参加しやすくなったという意見も多かった。
- ・若手育成セミナーでは今年は女性比率が従来にも増して高かった。
- ・この危機をむしろチャンスとして捉え、今後の神経化学会の発展を推進していくべきとの積極的意見を多数伺った。

9. 脳科学関連学会連合について

小泉修一理事長より、以下の通り報告があった。

現在、評議委員として、尾藤晴彦先生、林朗子先生と小泉先生の3名が参加。3名とも脳科連のメインである将来構想委員会に携わっている（尾藤先生は前委員長）。

尾藤副理事長より、委員長任期中は、臨床と基礎の双方向情報交換に努めた。今後もそれを継承して活動を前進させていただきたいとのコメントがあった。

岡野理事より、本学会としての提言をする場合、脳科連を通すべきか、多くの学会の意見集約に時間がかかりすぎる際は、他学会と共同や個別で行うこともありか、との質問があり尾藤副理事長より、個別論点については各学会からも随時提案は出しているが、基礎臨床に連なる疾患生物学などについては個別陳述より脳科連全体として出す方が話が通りやすい場合もある。とのコメントがあった。

望月理事より、脳科学委員会の今後の動向についてウォッチする必要があるとのコメントがあった。

仲嶋理事より、脳科連にライフサイエンスとの違いを戦略的にしていくような仕組みはあるか、と

質問があり、尾藤副理事長より、今後の学術進展には根本的に医学生物学と工学の連携をしていくことが必要であるがなかなかできてないとのコメントがあり、岡野理事からも、学問の積み重ねを考えると、一時的な研究費による活動ではなく、長期的な視野の取り組みを学会でやっていくことが期待されるだろうとのコメントがあった。

今後も脳科連に“うまく”参加していくことを継続して検討していくことになった。

10. 生物科学学会連合について

竹居光太郎理事より、以下の通り報告があった。

- ・ 共同利用・共同施設への意見書（サポートレター）について、生科連を通じて、大阪大学蛋白質研究所、東京医科歯科大学難治疾患研究所へサポートレターを提出した。今後、意見書（サポートレター）の提出判断は、理事長に一任し理事会で報告することに決定している。（N016. その他、P88に記載）
- ・ 生科連の代表選挙があり、現職の先生が東京大学の小林先生が、当選され継続となった。
- ・ 高校生の生物オリンピックは、長崎にてweb開催。作問の依頼はあったが、期限が短かったため、本会としては対応せず。結果は、日本から3名の銀賞受賞という快挙があった。

11. 男女共同参画学協会連絡会について

東田千尋理事より、以下の通り報告があった。

運営会にオブザーバーとして参加。学協会のHPに心理的バイアスについての掲載資料があり、学会によっては活用されている、本会も活用するかどうかが次期委員会で検討されたい。

12. 第63回日本神経化学学会大会（2020年度/単独大会）について

馬場広子大会長より、第63回日本神経化学学会大会について、以下の通り報告があった。

- ・ 収入は、約1,200万円。単独でweb開催となり、寄付金を集めるのがとても大変であった
- ・ 支出は、会場費を4万円と抑えられた。いちょうホールのキャンセル料も発生しなかった。
- ・ 発生した余剰金については、来年の単独大会および鍋島トラベルアワード、若手セミナーで活用いただきたい。
- ・ アンケートにて、会計報告の開示希望があった。次回総会で公表いただきたい。

13. 第64回大会（2021年度奈良大会）について

和中明生大会長より、以下の通り報告があった。

〈第64回（2021年度）大会〉（単独）

会期：2021年9月30日（木）～10月1日（金）

場所：奈良県コンベンションセンター

- ・ 急遽単独大会となったため、準備が遅れているが、現段階で資料のスケジュール案まで固まってきた。多分野交流、特別講演など、理事会企画シンポジウムも中身が固まってきた。シンポジウムは応募が15件ありプログラム委員で検討の結果、全件採用となった。
- ・ 懇親会については、対面で可能であれば最後に実施。コロナの状況なども見ながら調整していく。
- ・ テックセミナーもシングルセルと電気生理の2件実施する。
- ・ 運営については、現時点で予算2,000万円超となっている。単独大会でもあり寄付金が集まって

いないの状況が厳しい。ランチョンセミナーは2企業からなんとか取り付けた。

- ・若手セミナーは、幅広い内容で準備が進んでいる。今回はディスカッションも小規模で、女性でも参加しやすい形で予定している。
- ・一般演題は4月5日から募集する。若手の応募をお待ちしている。

14. 第65回大会（2022年度 / Neuro2022）について

竹居光太郎大会長（理事）より、以下の通り報告があった。

〈第65回（2022年度）大会〉（Neuro 2022合同大会）

会期：2022年6月30日（木）～7月3日（日）4日間

場所：沖縄本島 宜野湾（ぎのわん）コンベンションエリア

- ・日本神経科学学会、日本神経回路学会との3学会合同大会となる。
- ・コロナの状況、沖縄という遠さもあり、Webとのハイブリット化を目指し、予算調整中。
- ・懇親会は当初ビーチ開催を想定していたが、ハイブリット化への予算充当により、ホテル宴会場での開催へ変更する予定。
- ・また詳細が固まってきたらご報告する。

15. 第66回大会（2023年度）について

今泉和則大会長より、以下の通り報告があった。

〈第66回（2023年度）大会〉（日本神経病理学会と合同大会）

会期：2023年7月6日（木）～8日（土）

場所：神戸市 国際会議場

- ・日本神経病理学会との合同大会を決定した。初めての合同となる。
- ・運営事務局は、コンペでコンベンションリンクージュに決定した。2018年の神戸での実績あり。
- ・今後ポスター制作など準備を進めていく。

16. その他

小泉修一理事長より、以下の通り報告があった。

- ・2021年1月22日持ち回り審議にて、要望サポートレターについては理事長の判断で対応し、結果（サポート無しを含め）を理事会へ報告することに決定。現在まで6件について提出した。

【審議事項】

1. 役職理事・補充理事・各種委員会委員長の選出

◆理事長・副理事長について

2021～2023年度理事（補充理事除く）12名による投票及び審議の結果、理事長に岡野栄之理事が選出された（任期は2023年第1回理事会開催迄）。

◆役職理事について

新理事長に一任となり、担当理事を以下の通り選出した。

副理事長：竹居光太郎理事

庶務担当：照沼美穂理事

会計担当：村松里衣子理事

出版・広報担当理事の選出については、新理事長に一任となり、後日、等誠司理事に決定した。

◆補充理事選任について

得票数、専門分野及び地域性等を考慮し、審議の結果、下記の通り補充理事候補者を選出した。

味岡逸樹氏

小野賢二郎氏

牧之段学氏 以上(50音順)

◆各種委員会委員長について

各種委員会委員長の選出については、新理事長に一任となった。

2. 次期監事候補者の選出

審議の結果、次期監事候補を以下の通り選出した。

馬場広子氏

和田圭司氏 以上(50音順)

3. 名誉会員の推薦について

竹居光太郎庶務担当理事より、既に推薦が決定している監事2名以外には、追加の推薦候補は無いと報告があった。

4. 功労会員の推薦について

竹居光太郎庶務担当理事より報告があり、審議の結果、1名について総会への推薦が承認された。

5. 2020年度決算について

村松里衣子会計担当理事より、2020年度決算について報告があり、承認された。

・2020年度一般会計決算について

一般会計については、約26万円の赤字となった。収入の部では会費回収額が予算に対して80%と、前年の86%として低くなっている。実績回収額も1,000万円を切っているので、演題登録者への納入徹底など対策を講じていく予定である。

・第63回大会会計決算について

先ほど、馬場大会長よりご説明のとおりであるが、補足として、WEB開催により、鍋島トラベルアワードは支出がなく、若手セミナーも事務費のみの支出であった。

6. 第67回大会(2024年度)大会長について

小泉修一理事長より、前年どおり3年後の大会長について決めておく提案がされた。執行部より、小泉修一先生を候補者として推薦があり、議場に諮られ、その旨承認された。

7. 法人化について

小泉修一理事長より、進捗状況につき報告があり、承認された。

2021年1月8日に一般社団法人が設立された。新法人では、社員は、評議員と功労会員、シニア会員にて構成される。今後は、9月の総会にて承認を得たのちに、任意団体の財産と会員を移行し、12月までに解体する予定となる。

8. その他

◆会費徴収のキャッシュレス決済について

小泉修一理事長より、キャッシュレス決済について報告があった。

- ・ 前回、LINE Pay, Paypayの導入が承認され、具体化を進めたところ、金融会社より、非課税の会費についての契約が難しいとの回答あり、中断となった。
- ・ 自動引き落としやクレジットカード、PAYPALなど、色々な提案があったため、それぞれの費用やメリットデメリットについて、事務局にて再度まとめて報告をすることになった。
- ・ ネットバンキングなどでの銀行振込は現在も受付可能で、学会マイページの請求書再発行から口座情報はPDFでダウンロード可能であるが、認知度が低いと思われるため、事務局にてTOPページなどでの告知を強化することになった。

◆新理事長からの挨拶

岡野新理事長より、理事長就任にあたり、伝統のある学会で若手の育成に向け、最初から最後まで全力疾走で走りたいとの抱負が述べられた。

◆退任理事からの挨拶

今回、退任される木山理事、工藤理事、佐藤理事、尾藤副理事長、東田理事、永田理事から退任挨拶が述べられた。（仲嶋理事、坂東理事は途中退席）

以上を以て、予定した全ての議事を終了し、本年度第1回理事会を閉じた。